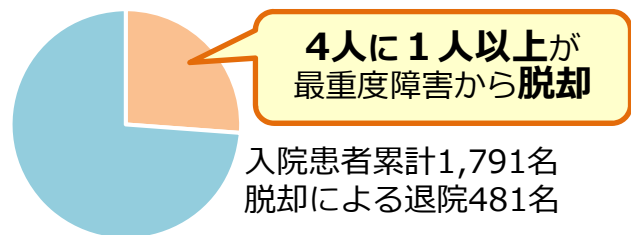


独立行政法人 自動車事故対策機構
 被害者援護部 小笠原、中島
 電話 03(5608)7638

NASVA療護施設の治療・看護等の成果を公表します！！ ～4人に1人以上が最重度障害から「脱却」～



NASVA療護施設での治療・看護



- 独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）では、全国に療護施設を設置・運営^{*1}し、自動車事故により重度の意識障害となった患者（遷延性意識障害者^{*2}）に対して適切かつ質の高い治療・看護等を実施しております。

*1 参考資料

*2 脳損傷により自力移動・摂食が不可能であるなどの最重度の後遺障害者

- 昭和59年2月の千葉療護センターの開設以降、各療護施設へ入院した患者のうち、運動・認知機能等を顕著に回復させ遷延性意識障害から「脱却」した患者は481名^{*3}にのぼり、入院患者累計1,791名^{*3}の約27%、つまり約4人に1人以上が療護施設での治療・看護により「脱却」したことになります。

*3 昭和59年2月～令和4年2月までの累計値

- 各療護施設における治療・看護等に関し、ナスバスコア（遷延性意識障害の重症度評価基準で点数が高いほど重症となる。）を用いた入院患者の治療改善状況を分析したところ、

①入院時ナスバスコアに対して、退院時ナスバスコアが減少していること

②入院時重症度別にみた場合でも、ナスバスコアは減少していること

が分かりました（別紙）。

- NASVAでは、引き続き、ナスバスコアを用いた入院患者の治療改善状況の把握を行うとともに療護施設における適切な治療・看護等により、遷延性意識障害者の方々の回復に向け努力して参ります。

※NASVA療護施設で得られた知見・成果については、日本脳神経外科学会等において令和3年度に47件（速報値）の研究発表を行いました。

ナスバスコアを用いた入院患者の治療改善状況 (松山市民病院を除く10療護施設を対象)

【入院から退院までのナスバスコアの変化(平均値)】

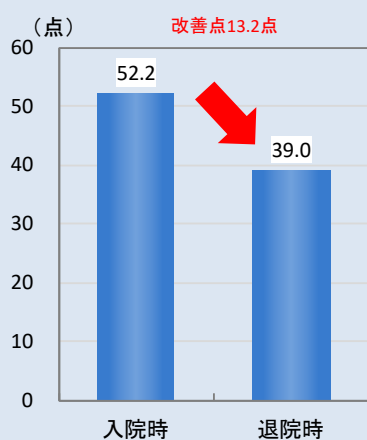
- 平成17年6月1日から令和3年5月31日までの16年間に退院した患者(1,036人)に関しても、平成28年6月1日から令和3年5月31日までの5年間に退院した患者(339人)に関しても、
 - 入院時ナスバスコア平均値に対し、退院時ナスバスコア平均値は減少している。
 - 入院時重症度別にみた場合も、ナスバスコア平均値は減少している。

H17.6.1

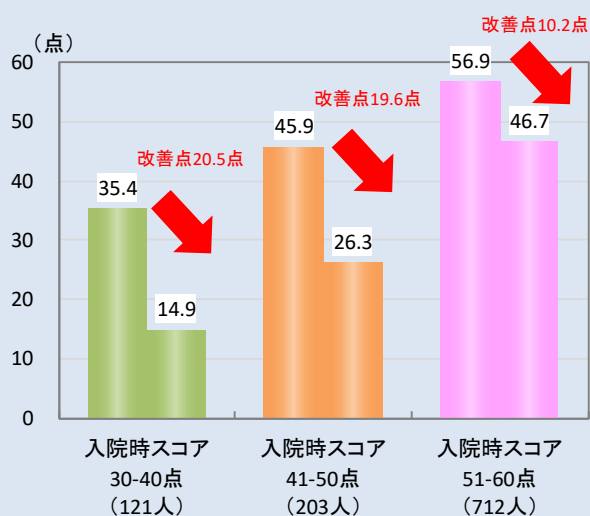
16年間に退院した患者(1,036人)

R3.5.31

入院から退院までの
ナスバスコア平均値の変化及び改善点
(1,036人)



重症度別の入院から退院までの
ナスバスコア平均値の変化及び改善点
(1,036人)

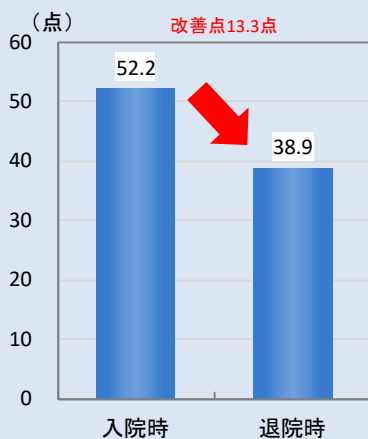


H28.6.1

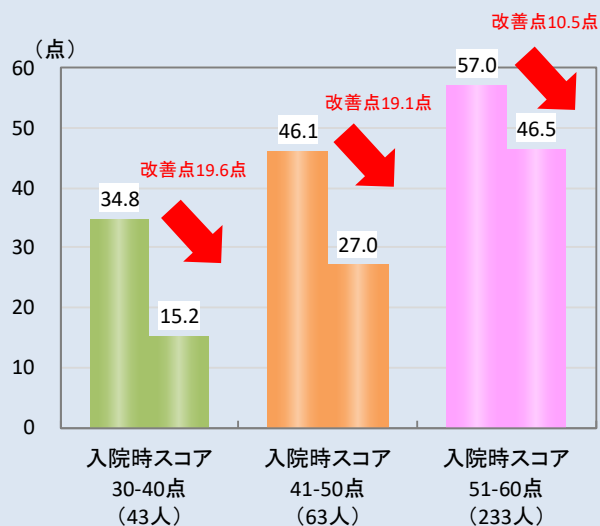
5年間に退院した患者(339人)

R3.5.31

入院から退院までの
ナスバスコア平均値の変化及び改善点
(339人)



重症度別の入院から退院までの
ナスバスコア平均値の変化及び改善点
(339人)



※ 改善点とは、入院時点ナスバスコア平均値から退院時ナスバスコア平均値を引いた差分である。

【NASVA療護施設一覧】



【療護施設の治療・看護の特色】



プライマリー・ナーシング方式

同じ看護師が一人の患者を主担当として継続して受け持つことにより、きめ細やかな看護体制を整備。



高度先進医療機器

治療効果の判定や効果的な治療・看護方法等の策定が可能。



ワンフロア病棟システム

病室の仕切りを最小限とすることで、患者のわずかな意識の回復の兆しを捉えられ、効果的な治療と看護が可能。